

なかの発!

FROM
NAKANO
01

悲しんでいる魂を癒やすことができる能を信じて

能楽師 伶以野 陽子さん

公益社団法人能楽協会正会員東京支部シテ方観世流 公益財団法人梅若会所属。演劇仲間だった米国人の夫と一番大切に思う息子との三人暮らし。好きなものは、梅干しと生クリーム。



山手通りから一步入ったところにある東中野の梅若能楽学院会館。ピンと張りつめた空気に包まれ、掛け声と鼓の音色が響くこの空間が、伶以野さんのホームグラウンドだ。

香川県の高校を卒業後、東京学芸大学教育学部に進学。中野駅近くのアパートに居を構え、演劇に没頭した。卒業後もロシアの演劇に心酔していたが、30歳を前に夜間に薪をたいて野外で行う能(薪能)を見て、衝撃が走った。すぐにシテ方観世流の梅若六郎氏(現梅若実 人間国宝)が学院長の梅若能楽学院の門をたたいた。

古典芸能とは無縁でゼロからのスタート。650年の歴史がある伝統の世界は、カルチャーショックの連続で、先輩にはよく叱られた。しかし、そのおかげで今の自分がある。先日の公演で失敗した際、舞台での対処法を知らなければならぬと教えられた。そうしているうちに落ち込んでいた気持ちは消える。「生活が苦しかった時、師匠に気遣いいただいたことも忘れられない」と涙ながら語る姿に、伶以野さんの人柄がにじみ出る。

能楽を続け、後世に伝えていくことは、夢ではなく目標。差別やいじめを知ると心が痛む。能には悲しんでいる魂を癒やす力があると信じている。中野は、チャレンジする人たちにも居心地がよい。学生時代の自分を支えてくれた好きなまち。感謝を胸に、今日も舞う。



▲伶以野さんの舞姿 (撮影 若杉憲司)

▲師匠の梅若実氏 (撮影 森山雅智)

なかの発! ▶中野での活躍が期待される文化人を幅広く紹介します

おも 人・想い・未来

7月、太陽が輝く夏到来。区の情報発信力向上の第一歩として、区報をリニューアルしました。私は、区民のみなさんが区の情報を得ることは、区政への理解や共感が深まり、まちに対する愛着や誇りを育むきっかけになると感じています。より分かりやすく区政情報を届けられる紙面をめざし、オールカラーに刷新するとともに、ユニバーサルデザインに配慮した文字や色を使用しました。また、区の重要施策について、地域や団体で活躍している「人」にスポットライトを当てた発信に変えています。それは、中野のまちに住み、働き、学び、活動する人こそがまちの主役であり、中野の財産であると実感しているからです。

私の趣味は、学生時代に魅せられたトロンボーン

区長 酒井直人

です。まちづくりを考えると、オーケストラによる演奏が思い浮かびます。弦楽器や管楽器、打楽器、ピアノを音響、照明などが支え、指揮者がまとめることでハーモニーを奏でます。更に、観客が一体となって演奏会は創られます。中野でも、さまざまな思いを持った人たちが、それぞれの特性を生かして一緒にまちづくりを進めることで、魅力が溢れるまちを実現し、観客である「中野ファン」を増やすことができると思うのです。

酷暑になるといわれています。暑さ対策を工夫して、楽しい夏にしていきたいと思います。



次号予告

みんなで取り組む
ユニバーサルデザイン



なかの区報二次元コード

区内各家庭の郵便受けなどに配布しています
情報活用後は、資源として古紙の集団回収へ